

第4回 嘉麻市行政経営推進審議会 会議録

1. 審議会等の名称 令和3年度 第4回嘉麻市行政経営推進審議会
2. 開催日時 令和3年10月29日（金）14：00～15：40
3. 開催場所 嘉麻市役所本庁舎5階 委員会室2
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 非公開の理由（会議を非公開とした場合のみ）

6. 出席者

（1）委員

美谷薫委員、吉岡滋樹委員、澤村健治郎委員、吉安勝行委員、三船國弘委員、
上野美智子委員、永富靖人委員、野見山桂子委員、松田クニ子委員

*欠席委員 西森章雄委員、大森成順委員、大里理子委員

（2）執行機関

企画財政課長 大村輝生、企画財政課長補佐 田中ひふみ、企画財政課長補佐 野見山泰秀
行政改革推進係 太田 野与香

アドバイザー 塩塚公認会計士事務所 塩塚正康

7. 傍聴人数（会議を公開した場合のみ） 0人

8. 議題及び審議の内容

【議題】

- （1）第3次行政改革令和2年度実施状況について（審議）
- （2）外部評価について（審議）
- （3）答申書案について（審議）
- （4）その他

【審議の内容】

○前回の審議会で、第3次行政改革実施計画の令和2年度実施状況及び外部評価について、ひと通り議論が終わったが、前回審議会の出席者が少なかったため、再度前回審議会と同じ部分の議論を行うこととした。

（1）第3次行政改革令和2年度実施状況について

第3次行政改革実施計画の令和2年度実施状況について、次のような質問及び意見が出た。

（委員）

・項目47「労働安全衛生制度等の充実」について、効果（又は効果の説明）の欄に「業務能率の向上」があげられていて、取組を行われているが、このシートからは実際に業務能率が向上したのかどうか、成果が分からない。全体的に他の項目についても、同じことが言える。効果を金額に置き換えているので、説明がしづらいのかと思うが、記載されていないと「取組が進んでいないのか」と感じる。5年間取り組んできて、「こういうことが良くなっている」ということを、それぞれの項目できちんと説明していただきたい。

・項目50「地域コミュニティの活性化」や項目51「自主防災組織の組織率の向上」について、効果として「地域コミュニティの活性化」があげられているが、地域コミュニテ

ィの活性化は図られているのか。

→市としての最重要課題であると考えている。対策について検討をしているが、有効な対策に繋がっていないところである。

- ・行政区に入らない人が増えているのが課題である。何かあったときに地域の繋がりがないと困ることがある。強制はできないが、市としても加入の促進をしてもらいたい。

- ・自治体に入るメリットを、もっとアピールしてほしい。

- ・各地域でも、自治会に入るメリットを作っていけるようにしてはどうか。行政は、補助金を交付することなどで支援はできるが、マンパワーが不足している。そのマンパワーの部分、どうやって各地域でやっていくかということが難しい。

- ・加入率の高い行政区や活動が活発な行政区は、どんな特徴があるのか。

→加入率の状況は把握していないが、上山田地区、熊ヶ畑地区、千手・泉河内地区において、小さな拠点づくりという取組を行っている。各地域で自主的に取組を行われているが、コーディネーター役は市が関わってきている。市が積極的に関与できるような体制づくりも必要なのではないかと考える。全ての地区において実施するのは、マンパワーの問題で難しいが、少しずつ活動を広げているところである。

- ・小さな拠点づくりを担っている人たちは、ほとんどが高齢である。元々そういう地域に、若い人があまり住んでいない。継続性が大切であるため、若い人を巻き込んで小さな拠点づくりを行うのが理想だが、難しい。市の職員も、できるだけ地域のコミュニティに入ってもらいたい。

- ・行政の人たちが、自分が住んでいる地域で活動していただくことも大切であるため、ぜひ活動してもらいたい。社会福祉法人も、地域貢献活動を実施するよう求められている。法人として地域貢献活動を実施するのが難しいこともあるため、職員が地域に貢献するような活動を実施することを奨励している。社会福祉法人が市内にはいくつかあるので、会社等を通じて、働いている人に地域活動について声かけをしてもらおうなど、そういったことも活用されてはどうか。

- ・社会全体の地縁が薄くなっている。それをどう補完していくのかという考え方もある。まちづくりという視点で、伝統的な地縁で取組むということもあるが、場所というよりもテーマで結びつきを強めるというテーマ型のまちづくりというのも最近出てきている。若い人たちは、テーマ型の方が入りやすい。子育てのことなどで、まずネットワークを作って、そういう人たちと地縁の取組をうまく結びつけていくというようなやり方もあるのではないかと思う。

- ・まちづくりの話に発展していて、行革の話からずれているような感じもするが、行政や地域や個人の役割分担という視点で考えると、とても重要なテーマである。

- ・地域コミュニティの活性化や協働の推進が、どうやったら実現するのかということについて、うまく考えてほしい。行政だけでもできないし、地域だけでもできないので、いろいろな取組を行いながら進めていくのがよいのではないか。今までのように、がっちりとしたネットワークとしての行政区を目指すのは難しい。

- ・項目36「地域包括支援センター業務の民間等への委託」について、民間委託をするこ

とによって効率化するわけではない部分もあるのではないかと。

→全国的に見てこういった例があるということで、実施計画の項目としてあげたところである。この項目を計画にあげた背景としては、人材不足がある。人材を確保するのに、大変苦慮している。この項目については、第4次の行政改革実施計画にもあげているので、毎年状況を確認しながら、場合によっては直営を維持するという結果になることもあるのではないかと考えている。

・これまで3回にわたって審議してきた内容について、答申書案に入っていないものもあるようなので、記載してほしい。

・新型コロナの影響も踏まえ、ワンストップで手続きができる窓口を作るなど、住民対応の在り方を検討してほしい。課の間の垣根をなくす工夫をしてほしい。

(2) 外部評価の実施について

前回の審議を振り返り、審議を行い、次のような質問及び意見が出た。(委員)

・所管課が、事務事業評価の意義をどこまで理解できているのか不明であるが、市民に対してちゃんとした説明となるように、評価表に記載すべきである。

(子ども医療対策費について)

・従事者コストが職員0.4人分となっているが、現物給付で、直接の窓口事務は事務量としてそんなに多くはないということか。

→その通りである。

(待機児童解消対策事業について)

・「8. 評価」の「効率性」の「事業の成果を下げずに、コストを削減する余地はない。」欄が「－」となっている。その評価を行った理由として、必要不可欠であるためというようなことが記載されているが、必要不可欠であるかどうかとコストが削減できるかどうかは別の話ではないか。評価の仕組みを所管課にきちんと理解してもらう必要がある。

(有害鳥獣被害対策費について)

・このままのやり方を継続すると、個体数が増えるにつれて対策費用も増えていくのではないかと。

(学力向上強化プロジェクト事業について)

・学力がどのように推移しているのか知りたい。

→次回の審議会にて、学力に関する資料を提出する。

・学力の数値等で測れることばかりでなく、情操教育にも力を入れてほしい。

・教育については、学力が上がることや教育環境が良いことなどにより、移住・定住にも繋がることから、積極的に取り組んで欲しい。

・学力を上げることを考えると、実施するのは小学校6年生や中学校3年生ではなく、低学年を対象に実施して、家庭学習を習慣化させることが大事なのではないかと。

・行政区にいる教員のOBなどを活用して、行政区で週に1回勉強したり料理したりすることで塾などにも行く必要がなくなるし、地域でも繋がることができるようになると思う。もう少し、お金(教育に関する予算)の使い方を検討してほしい。

(3) その他

9. 配布資料

- ・令和3年度第4回嘉麻市行政経営推進審議会次第
- ・答申書案